

旭小学校

かわら版

学校通信

- ・すすんで学ぶ子
- ・きまりを守る子
- ・心身をきたえる子
- ・まじめに働く子
- ・なかよく協力する子



令和元年 6月28日号

集団生活を学んだ林間学校

6月20日(木)21日(金)

5年生が藪塚の東毛青少年自然の家で林間学校を行いました。初めて学級の友だちと宿泊して集団生活を行う1泊2日の合宿訓練です。

当日は、好天に恵まれ、班ごとに山の中でのポスト探しや2日目はうどん打ちなどの体験をしました。夜は、薪を囲んでのキャンプファイヤーを行いました。2日間の生活は、自分たちで考え行動する場面の多い活動です。友だちの良さや協力の大切さを学んだことと思います。



まちたんけん

14日(金)に2年生が生活科の学習で〈まちたんけん〉に出かけました。あらかじめ選んだお店を何カ所か回り、お店の人に質問したり、お仕事の様子を見せていただいたりします。これを通して、身の回りにいろいろなはたらきをしてる方がいることやその方々とのふれあいを体験します。日頃見られない裏側も見ていただき、満足そうでした。あさひ支援隊の方々には引率の協力をしていただきました。ありがとうございました。

授業の向上を目指して

25日(火)に教育委員会の指導主事の先生方をお迎えして、授業研究会を行いました。いくつかの授業を指導主事や教科指導員の先生に見ていただき、放課後授業づくりについて研究会をもちました。授業の質を向上させるためのご指導をいただきました。

子どもたちの熱意に負けないように、授業の質を高めていきます。



運動会について考える

昨年度の運動会は、台風接近により児童の安全を考えて内容を減らし、半日開催となりました。削減した種目やお弁当をたのしみにしていた子もいたようですが、安全第一に考え、やむを得ずこのような措置をとらせていただきました。

昨年のような酷暑も考えられる中、運動会について、どのような内容にしていくのか、子どもたちにとって思い出深く充実感を感じられるものになるのか、などを検討して計画を立てています。何より大切なものは、子どもの健康、安全です。

日本で運動会が最初に開かれたのは、1874(明治7)年の東京築地海軍兵学寮です。これが全国の学校に広まり、運動会として定着しました。この頃は、子ども版の軍事演習という性格ももっていたようです。入場行進などは、その名残かも知れません。**初めの頃は〈村の祭り〉**としての性格ももっていたようです。収穫を終えた秋に先生や児童の数を超える村人が集まり、露天商も出ました。お昼を家族で一緒に食べたり、村人の参加種目があったりしたようです。歴史を考えると、行進や家族一緒の昼食などが存在した理由が分かります。

ところで、**みなさんは〈運動会〉をイメージするときに、何が大切だと思われませんか？**「徒競走は外せない」とか「ダンスこそ子どもの良さが出る」とか「地域が一体となるものが欲しい」など、人によって様々でしょう。全てを行うことは練習や当日の日程から不可能です。いったい、どれが「外せないもの」なのでしょう。

こういったことを考えていくときに、忘れてはならない基本中の基本があります。それは、**「子どもがどう感じるか。子どもの成長に役立つか」**ということです。全て学校の活動は、子ども中心であるべきです。しかし、そうはいつでも子どもは自分で適切なものを考え出すことはできません。だから、大人が経験と知恵に基づき子どもたちに提案し、子どもの気持ちに寄り添いながら行っていくこととなります。

どのような観点で種目や日程を決めれば良いのでしょうか。本校では、次の基準、順位で考えていきます。

- 0 子どもの健康・安全が確保できる これは、大前提ですから、0次です。
- 1 普段できない体験ができる 一人ではなく、集団でなければできないこと
- 2 子どもたちがたのしんで取り組める 結果的にたのしいということも含め
- 3 体育育的行事として体育の学習の要素がある
- 4 参観者に見て喜んでもらえるという体験ができる
- 5 保護者・地域との連携が図れる

このような観点で今年度の運動会は、**1日開催(14時頃終了)とし、昼食は児童だけでエアコンの効いた教室で取り、食事後一定の休憩時間を確保して実施**します。高学年の児童は係活動も行います。そのため、いつもより早い時刻に登校し、終了後も片付けの一部も担います。半日開催となると、種目を切り詰めても長時間屋外にいることとなります。そこで、休憩を確保し、ゆとりを持たせ安全と充実感を確保します。